

いずみのひるば



「神さまを信頼すること」

マルコによる福音書 9・14～29



イエスさまとペテロ、ヤコブ、ヨハネが山からおりてほかの弟子たちの所に帰ってきま

した。弟子たちはたぐさんの人たちに囲まれて律法学者たちと話していました。

「悪い霊にとりつかれているこの男の子の霊はなんだろう。」

「くるしんでいる子どもを見ると、あの霊では？」

「いや違うだろう！」くるしんでいる子どもと、そのお父さんをほったらかしにして話をし

ていました。

その子のお父さんは、イエスさまをみつめて言いました。

「この子は悪い霊にとりつかれています。お弟子さんたちに助けてほしいとおねがいしま

したが、だめでした。」「おできになるなら、わたしたちをあわれんで、お助けください。」

お父さんは心配しすぎて、イエスさまでも無理かもしれないと思ったのでしよう。

イエスさまは「『できれば』というのか！信じるものにはなんでもできる。』と大きな声でい

いました。

イエスさまは、くるしめてきた悪い霊を追い出してくださり、男の子の病気をなおしてくださ

いました。それを見た弟子たちは聞きました。「どうしてわたしたちには悪い霊をおいだせなかつ

たのでしょうか？」

「神さまを信頼し、お祈りをしなければできない。』自分たちの力でなんとかしようとして、

祈ることを忘れていた弟子たちにおつしやいました。

イエスさまもたびたびお祈りをする時間をとっています。神さまとお話しして力を

いただくのです。神さまがいっしょにいて戦ってくださるのです。

わたしたちは神さまによって創られ生きています。

わたしたちは、イエスさまを通してはたかれる神さまの力を信頼して

「信じます。助けてください。」とさげんでいひのです。

イエスさまはそれをよるこんで、しつかりと受け止めてくださいいます。

神さまは、わたしたちが神さまを信頼して、神さまのほうを向くことを待つておられます。

